

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：中華人民共和国	案件名：湖北省江漢平原四湖湛水地域総合開発計画
分野：農林水産業	援助形態：プロジェクト方式技術協力
所轄部署：農業開発協力部農業技術協力課	協力金額：8.43億円
協力期間	1997年1月10日～2002年1月9日
	先方関係機関：湖北省江漢平原湛水地域総合開発利用中日技術協力プロジェクト実施管理事務局（湖北省湛水地域開発工程技術研究センター）
	日本側協力機関：農林水産省
他の関連協力：	
<p>1-1 協力の背景</p> <p>中国では、沿岸部と内陸部の所得格差が問題となっており、国家計画においても、内陸部の開発を進めることが重要な課題として位置付けられている。中国内陸部の江漢平原は、長江とその支流の堆積により形成された地域であり、その中心の四湖地区には湛水地域が集中している。また、湛水地域ゆへの土地利用の制限、非効率な作付体系、不良土壌等により農業生産ポテンシャルを十分に生かせない状態にあり、圃場内排水の整備とこれに対応した営農技術の確立が課題となっている。</p> <p>このような背景から、中国は、日本の湛水地開発に関する技術と機材・施設を導入し、本地区の穀物の増産を図るとともに、淡水地域開発のモデルを示すことを目的としたプロジェクト方式技術協力を我が国に要請した。</p>	
<p>1-2 協力内容</p> <p>人材の養成を目的として、湖北農学院に設置されている湖北省湛水地域開発工程技術研究センター（以下、センターと言う。）と同試験圃場を活動の拠点とし、2ヶ所のモデル地区（荊州市と潜江市に1地区ずつ）における実証を通じて、湛水地開発に必要な土地利用計画等の技術の改善及びカウンターパートや湖北省内の技術者への技術移転、そして、人材育成体制の整備を行った。</p> <p>(1) 上位目標 プロジェクトで開発された技術が荊州市と潜江市に広がる。</p> <p>(2) プロジェクト目標 四湖地区内の2ヶ所のモデル地区における湛水地域開発利用方法の実証を通じて、淡水地域開発に携わる人材が養成される。</p> <p>(3) 成果 1) モデル圃場及びモデル地区での試験、実証作業を通じ、淡水地開発に必要な技術が確立する。 2) 湛水地域開発に必要な人材育成の体制が整備される。</p> <p>(4) 投入 日本側： 長期専門家派遣 13名 機材供与 1.59億円 短期専門家派遣 16名 ローカルコスト負担 0.37億円 研修員受入 23名 相手国側： カウンターパート配置 24名 ローカルコスト負担 32,090千元（約5.15億円）</p>	
2. 評価調査団の概要	
調査者	<p>団長・総括：関 光男 農林水産省関東農政局土地改良技術事務所長 土地利用計画・排水事業：飯嶋 孝史（財）日本農業土木総合研究所 栽培：宮坂 初男 農林水産省生産局総務課国際室課長補佐 計画評価：二神 健次郎 JICA農業開発協力部農業技術協力課 評価分析：岡田 直美（財）国際開発高等教育機構 通訳：青山 久子（財）日本国際協力センター</p>
調査期間	2001年11月11日～2001年11月25日
	評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要	
<p>3-1 評価結果の要約</p> <p>(1) 妥当性 中国の「中華人民共和国国民経済と社会発展第10次5カ年計画要領」また、湖北省の「湖北省国民経済と社会発展第10次5カ年計画要領」でも、本プロジェクトの目標の重要性が強調されており、プロジェクトの目標とその方向性は評価時点でも妥当であることが確認された。</p> <p>(2) 有効性 湛水地域開発に必要な技術が確立され、排水計画指針等の研修テキストや指針・技術マニュアルにまとめられた。また、日本人専門家と共に、技術の開発や研修普及用資料を作成した中国側カウンターパートが研修講師となり、講義・実習・視察を効果的に組み合わせる研修カリキュラムを策定した。これらの成果を受け、センターにおいて研修が実施された結果、一部の受講生は職場でその技術を利用しており、プロジェクト目標は達成されたと評価する。また、今後も引き続き人材が養成され湛水地域の開発に従事する見込みである。</p> <p>(3) 効率性 日本側の投入は、概ね無駄なく成果の達成に活用されている。しかし、長期専門家の健康上の問題や派遣の遅れ、交代時</p>	

における専門家不在の時期が生じるなどの結果、プロジェクト期間中、一時期活動の遅れがあった。供与機材については、到着及び据え付けが遅れた機材があり、関連する試験の実施に支障をきたした。機材の管理状況はよく、センターにおいて適切に維持管理されている。また、センター試験圃場の付帯施設や排水機場・排水路の整備についても遅れが生じた。プロジェクト全体に関することでは、プロジェクト実施管理事務所が武漢にあり、2ヶ所のモデル地区は荊州市と潜江市（両者の間は車で1時間）、センターがある湖北農学院（武漢から車で3時間）とプロジェクト実施場所が4ヶ所に分かれたことから、関係者の協議が困難であり、命令系統が不明確で、活動に支障を来たした。

#### (4) インパクト

上位目標については数量的な調査はなされなかったが、研修受講者が農民や関係者を対象に研修で習得した技術を普及していること、さらに、その技術を使って実際に効果を上げつつあることから、今後研修の充実とモデル地域の整備が進むにつれ、研修の波及効果はますます大きくなるものと考えられる。

また、センターが本プロジェクトの研究調査結果を多くの論文として発表してきたことで、湖北農学院に対する学術的評価が高まったこと、モデル地域において一部の農民が本プロジェクトで確立した作付け体系を取り入れ農業生産性が向上したこと、センター試験圃場の整地や水管理が進み、圃場の美化や衛生的な生活環境が整い、環境美化の重要性を関係者に認識させるなど、プラスのインパクトが生じている。

#### (5) 自立発展性

センターは、湖北省が設置を批准した正式な省レベルの機関であり、技術開発・研修機関として今後も存続し、センターの運営に必要な予算もすべて公的な資金で確保される見込みである。また、各分野において習得された技術は、中国関係者で維持、発展できる水準に達している。マニュアル類の更新・改訂および引き続き行われる試験研究により技術の更なる発展が期待できる。

### 3-2 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

該当なし

#### (2) 実施プロセスに関すること

該当なし

### 3-3 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

該当なし

#### (2) 実施プロセスに関すること

- 1) 一部専門家の派遣、機材の供与が予定通り実施できなかったため、効率性に影響した。
- 2) カウンターパートがプロジェクト専任ではなかったため、本プロジェクトの業務に集中できず効率性に影響した。
- 3) 管理責任機関が武漢にあり、現場が複数ヶ所に分かれていたため、意思疎通に支障を来たし、また、モデル圃場などへのアクセスが悪く、業務の効率性に影響した。
- 4) 関連機関、特に湛水地域開発に欠かせない水利庁との連携があまり取られていなかった。

### 3-4 結論

日本側専門家の不測の事態による交代、長江大洪水等の大きな障害に面したが、日中双方の関係者の多大な努力により、プロジェクトの目標はおおむね達成する見込みである。

### 3-5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

- (1) 本プロジェクトの成果を拡大するためには、センターが引き続き、中堅技術者の育成とともに農民の研修など技術の普及活動を行う必要がある。
- (2) 普及・研修を効果的に実施していくためには、各部門部署間及び関係諸機関との連携が不可欠である。
- (3) プロジェクトの効果と成果を知らしめるために、センターは湖北省科学技術庁、JICA中国事務所に定期的に活動実績や事業計画を報告する必要がある。

### 3-6 教訓（他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

- (1) プロジェクトを効率的に推進するため、カウンターパートはプロジェクトの専任であることが望ましい。
- (2) プロジェクトの円滑な進捗のためには、カウンターパートのプロジェクト責任者との十分な意思疎通は必要であり、プロジェクト責任者の事務所やモデル地区などの場所は、関係者のアクセスが良い場所が望ましい。また、現場の実態を随時把握するために、モデル圃場などは関係者のアクセスのよい所が望ましい。
- (3) プロジェクトの効率化やプロジェクト成果の広がりを図るため、関連機関との連携システムを構築してプロジェクトを実施すべきである。

### 3-7 フォローアップ状況

該当なし